
研究資料

都市近郊林について (I)

—— 箕面国定公園の利用についての意向調査 ——

小笠原隆三*
吉岡水脈*

Studies on the City Forest (I)

—— Public Opinions Regarding Use of Mino Quasi-National Park ——

Ryuzo OGASAWARA *
Mio YOSHIOKA *

Summary

The public opinions regarding use of the Minō Quasi-national park are investigated by the quationnare method.

The summary of result is : Many people wish for walking and satisfied spectacular sight of fall and forests in this park.

Many people desire a car park, promenade road, spots institution and recess institution as institution in this park.

Many people desire to utilize of this park in future.

But, Many people desire not to take the entrance fee.

I 緒言

我国の国民経済の急速な発展にともない、生活水準の向上、余暇の増加、都市の生活環境の悪化、価値観の多様化などがおこり、森林に対しては、木材生産のような特定の効用のみに片よるのでなく、森林のもつ多くの効用を総合的にかつ高度に利用していくことが強く求められるようになった。こうした中で、近年益々重要性を増してきているものの1つに都市近郊林がある。

我国においては、都市化が急速にすすむにつれ都市内はもとより周辺の森林も開発により著しく減少しており、都市住宅に必要な森林、すなわち、都市近郊林の整備が著しくおこなわれているのが現

* 鳥取大学農学部 農林総合科学科 森林生産学講座

* Department of Forestry Science, Faculty of Agriculture, Tottori University

状である。

ドイツ、オーストリアなどヨーロッパではウィーンの森、フランクフルトの森などのように、都市近郊林がよく整備され、都市住民の保健、休養などの場として重要な役割を果たしているものが多い¹⁾。我国でも、こうしたものを参考にしながら、それぞれの地域自然条件、社会条件を配慮しながら、独自の都市近郊林を整備していくことが必要である。

本報では、大阪府の箕面国定公園の来園者を対象にして利用に関する意向調査を行い、今後の都市近郊林の整備充実の参考に供しようとするものである。

我国でも、こうしたことを参考にしながら、地域の自然条件や社会条件を配慮しながら独自の都市近郊林を整備し、そして多くの人々が利用しやすいようにすることが必要である。

近年、広葉樹林が保健休養、動植物保護その他の面から次第に見直されるようになった。

我国のように広葉樹林の多い自然公園でもこの広葉樹林をどのように利用していくべきか、そしてそのためにどのような森林施業が必要かが大きな課題となっている。

これまで、大阪府の箕面国定公園の来園者を対象にして、利用に関する意向および森林施業のあり方に関する意向の調査を行ってきた。

本報は、そのうち利用に関する意向についての結果を報告する。

II 調査地および調査方法

1. 箕面国定公園

箕面国定公園は1967年の明治百年事業の1つとして指定されたもので、総面積は963haである(図1)。



図1 箕面国定公園

鉢伏山(標高600m)を最高に比撰山系のなだらかな山並みに囲まれており、自然林と溪谷に恵まれたところである。春は桜、初夏は新緑、秋は紅葉と自然美に恵まれていることから訪れる人も多く、その数は年間200万人程とされている。動物としては、サル、シカも多く、昆虫は3200種もあり昆虫宝庫と言われているほか、オオルリなど野鳥にも恵まれ野鳥観察の場としても適したところとされている。

森林についてみると、本公園の約6割を占める箕面国有林の場合、23%天然林で、その樹種はアカマツを主としてモミ、カヤ、アラカシ、クヌギ、アベマキ、コナラ、リョウブ、ソヨゴ、サクラ、イロハモミジ、クリ、ツバキ、サカキ等の混交した多段林型をなしている。人工林は77%で、その中でスギ林が44%、ヒノキ林が51%である。

2. 調査方法

平成元年10月10日、箕面国定公園内の来園者500人を無作為にえらびアンケート用紙を配布した。このうち34.2%にあたる171人から回答をえた。なお、回答者の年齢構成をみると表1のようである。

表1 年齢構成

1	9 歳 以 下	12名
2	0 ～ 2 9 歳	46名
3	0 ～ 3 9 歳	44名
4	0 ～ 4 9 歳	34名
5	0 ～ 5 9 歳	26名
6	0 歳 以 上	9名

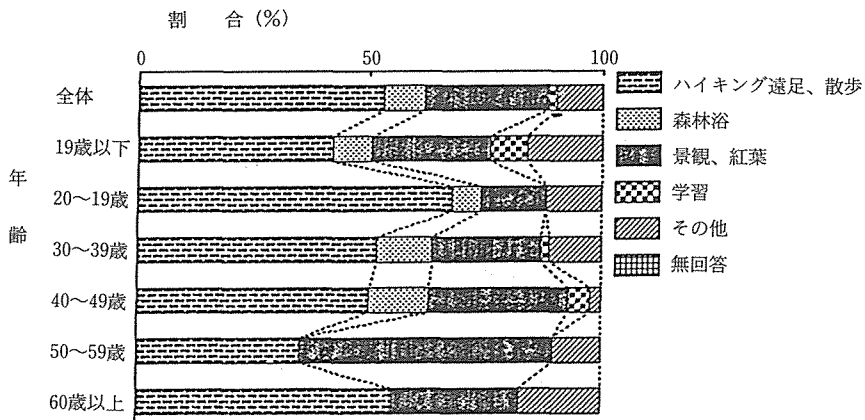


図2 今日来られた目的はなんですか

III 結果および考察

1. 来園目的

この箕面国定公園に来た目的についてたづねた結果をみると図2のようである。

全体で見ると、「ハイキング、散歩」が52.3%と最も多く、次いで「景観観賞」の26.9%、「森林浴」の8.6%、「学習」の2.0%の順となっている。ハイキング、散歩と森林浴をあわせると60.9%に達し、健康増進的なものを目的としているのが多い。これを世代別で見ると、年齢が高くなっていくと健康増進的なものがやや減少し、景観観賞の方が多くなっていく傾向がみられる。なお、目的の「その他」の中にはサイクリング、デート、猿をみるためなどが多い。

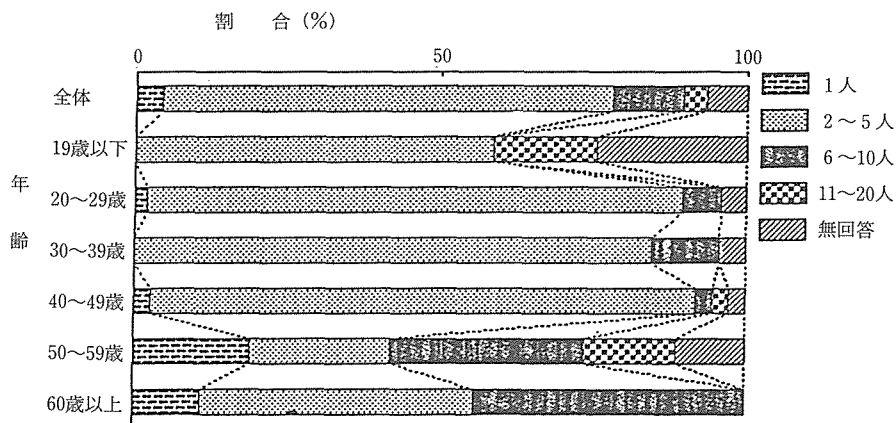


図3 今日は何人でこられましたか

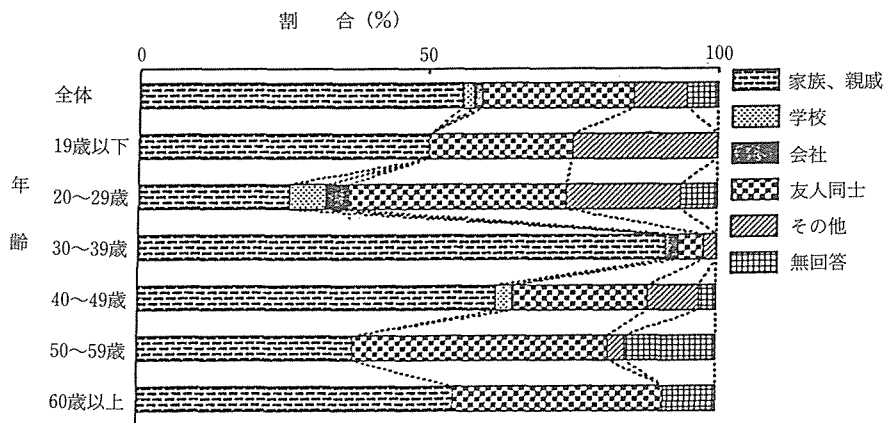


図4 だれと(どういうグループで)来られましたか

2. 同伴者

本公園には何人で来たのか、複数で来た場合は誰と来たかについてたづねた結果は図3～4のようである。来た人数については、1人が4.6%と少なく大部分は複数で来ていることがわかった。複数で来ている場合、2～5人が最も多くて72.2%を占め、6～11人が11.9%、10～20人が6.8%であった。世代で見ると、あまりはっきりした傾向はみられないが、50才以上になると1人で来る人がやや多くなり、複数で来る場合は6人以上と比較的の人数で来る傾向がみられる。複数で来た場合、誰と一緒に来たかをみると「家族、親戚」が55.2%と最も多く、半分以上の人が身内の人と来ている。次いで「友人」の26.5%である。世代別ではバラツキが大きく、はっきりした傾向はみられない。

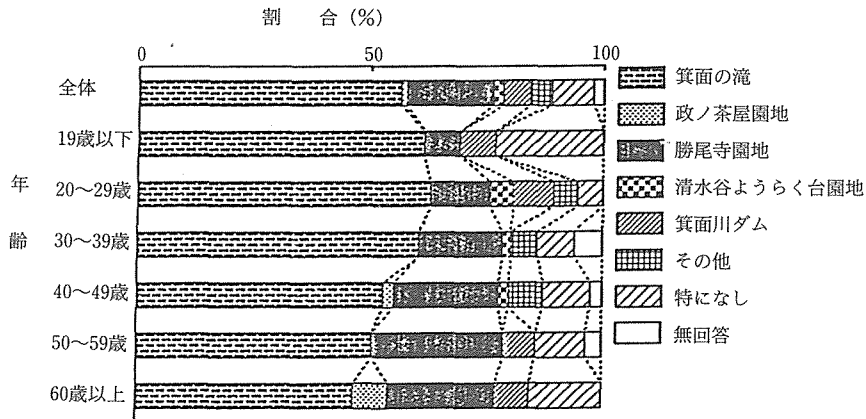


図5 公園内で最も好きな場所はどこですか

3. 気に入った場所

公園内で気に入った場所についてたづねた結果をみると図5のようである。

全体では、「箕面の滝」とした人が55.2%と圧倒的に多く、次いで「勝尾寺園地」の18.6%、「箕面川ダム」の6.2%の順である。これを世代別で見ると、年齢が高くなると箕面の滝が減少し、勝尾寺園地が増加していく傾向がみられる。箕面の滝は本公園の看板的存在であり、よくPRされており、来園の主目的とされていることから当然の結果であろう。

しかし、勝尾寺園地のように最近その周辺が整備されているところでは訪ねる人も多くなってきている。他の場所でもより整備充実を行い、訪ねやすくしたりPRすることにより、利用者の満足も多様化していくことが考えられる。このことがまた、公園全体の利用者の増加につながっていくものと思われる。なお、関連して来園してみて不満だった点があったらあげて下さいとたづねた結果は表2のようである。ゴミが多い、猿のフンの始末がわるい、トイレが汚いなど、きたない、不けつである点をあげている人が多かった。施設の面では駐車場がせまいが多く、次いで道路の整備不良、標識が少ないの順であった。

表2 来てみて不満だった点を挙げて下さい

			(複数回答)
ゴミが多い	46人	臭い	11人
猿のふんの始末が悪い	31人	人が多い	10人
駐車場が狭い	27人		
車が多い	22人	道路の整備不足	9人
猿がいない	21人	標識が少ない	7人
トイレが汚い	14人	その他	25人

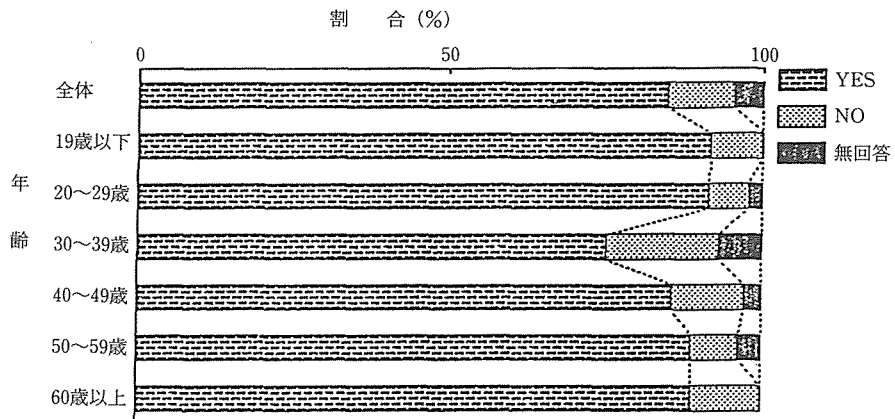


図6 また利用したいと異われますか

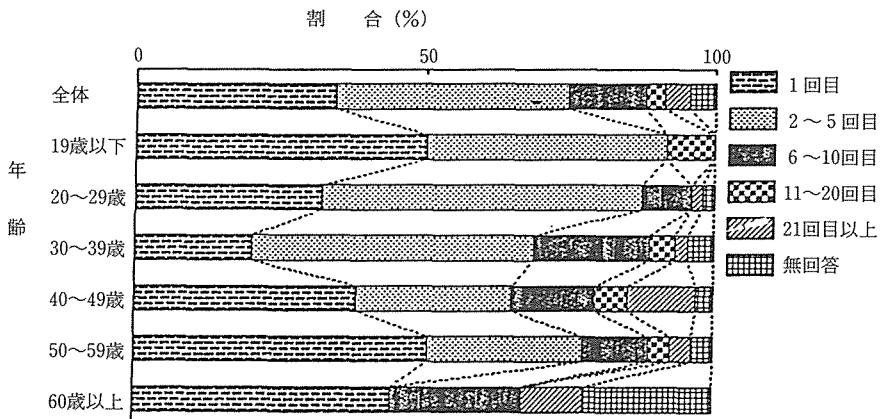


図7 「明治の森・箕面国定公園」に来られるのは何回目ですか

4. 再来園の意志

また、この公園に来たいと思うかどうかについてたづねた結果は図6のようである。

全体で見ると、84.7%もの人が「はい」と答えており、「いいえ」はわずか10.8%にすぎない。こ

れは世代別にみても大きな差はあるとはいえない。このことは、老若をとわず本公園をたづねた人は満足している人が大部分であることを示している。なお、これまでもこの公園に来たことがあるかどうかについてたづねた結果は図7のようである。はじめての人は34.7%で少なく、2回以上の人が61.3%もあり、回数でみると2～5回の人が多く中には、100回以上の人もみられる。これらのことからみても、本公園はおおむね親しまれているとみてよいようだ。

5. 今後期待するもの

今後、都市近郊林としての本公園の効用としてなにを期待するかについてたづねた結果は図8のようである。全体では、「ハイキング、散歩」が27.7%、「森林浴」が25.2%、「景観観賞」が22.2%、

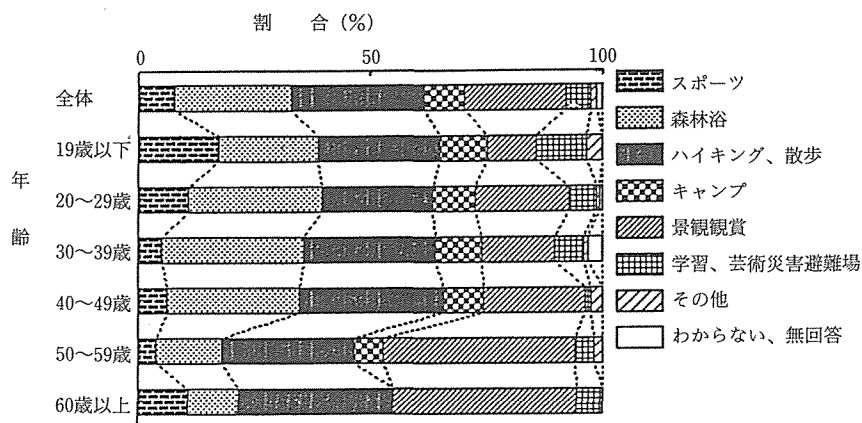


図8 都市近郊林に対する期待

「キャンプ」が8.8%、「スポーツ」が8.1%であった。これからみると、健康増進(保健)的な効用に大きく期待していることがわかる。

これを世代別にみると、特に大きな差ではないが、年齢が高くなっていくにつれスポーツが減り、景観観賞の割合が増加していく傾向がみられる。

次に、具体的にどのような設備の充実を望むかについてみると図9のようである。全体では、「駐車場」をあげる人が26.1%で最も多く、次いで「遊歩道」が17.8%、「スポーツ施設」と「休養施設」がそれぞれ11.7%、「植物園」が10.5%、「キャンプ場」が9.3%となっている。

本公園は、電車、バスの便がよいところであるが、車で来る人もかなり多く、駐車場のせまさが深刻なようだ。これからも車の利用が多くなっていくとみられることから、この駐車場の整備は早急に行う必要があると思われる。

世代別にみると、若い世代ではキャンプ場、スポーツ施設、遊歩道等に対する設備を望む人が多く、年齢が高くなるにつれ休養施設、植物園、山菜園、駐車場の設備を望む人が多くなっていく傾向がみられる。公園内の施設の整備充実は都市住民の利用度の増加につながり、また、これからは利用の多様化が益々すすむと考えられることから特定の施設に片寄ることなく全般に施設の整備充実が必要であろう。

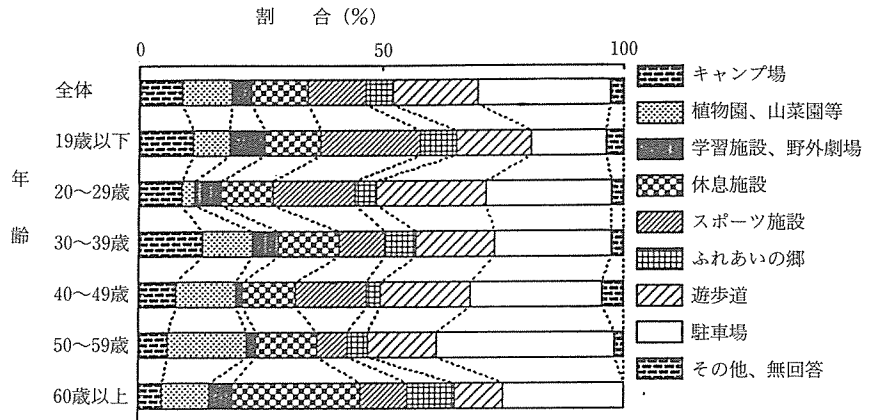


図9 今後望む設備、施設

6. 入園料

現在は入園料はとっていない。しかし、将来、園内の施設の整備充実に多額の経費を必要とすることがおこり、そのため入園料をとることもありうるので、その入園料についてたづねた結果は図10のようである。

全体では、「反対」が69.7%、「賛成」が10.8%となり、入園料をとることに反対する人が圧倒的

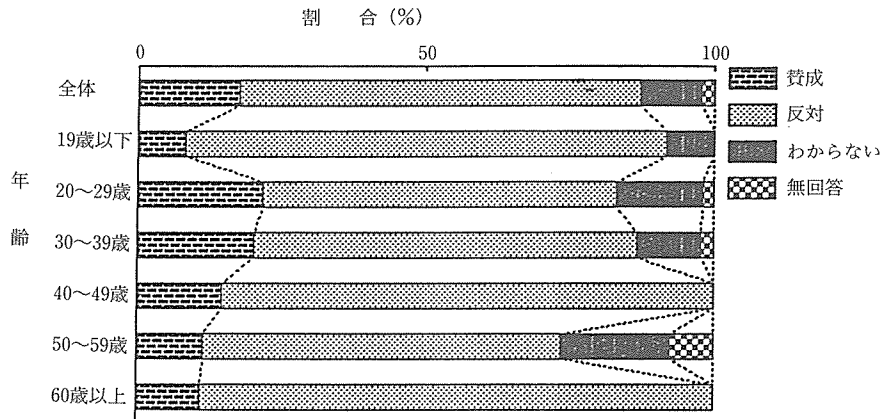


図10 入園料の有料化について

に多い。世代別では、若い方で賛成がごくわずかであるが多くなっていく傾向がみられることは注目される。なお、この反対する人の理由の中に「お金をとるなら利用しなくなる」、「どこからでも入ることができるため入園料をとることは無理」など多い。

現在のところ、入園料をとる計画は全くないが、将来、経費増などから入園料をとることにする場合は、利用者の理解をうるために多大な努力をする必要があろう。

以上のように、本公園において多くの人が満足し、今後とも利用したいとしていることから本公園に対する評価はおおむね良好とみてよい。

しかし、一方整備を必要とする施設や不満な点もみられ、今後解決していくべき課題も多い。

こうした利用者の意見を参考にして、公園の整備をすすめていくことは、利用者の増加をもたらす、さらには森林は皆のもの、皆の財産という考え方にもつながっていく大事なことと思われる。

施設の整備にはそれなりの予算が必要となる。近年、公共施設での費用に関して受益者負担を求める傾向がみられるようになった。しかし、本公園における設備のための費用については大部分が反対しており、少なくとも現時点では、受益者負担の考え方でいくのは利用者の減少にもつながり無理のようだ。

IV 要 旨

都市近郊林としてよく知られている箕面国定公園の来園者を対象にして利用に関する意向調査を行った。

- (1) 公園に来た目的はハイキング、散歩などが多く、ついで景観観賞である。
- (2) ほとんどの人は複数できており、同伴者は家族、親戚が多い。
- (3) 公園内で最も気に入った場所は、箕面の滝で、次いで勝尾寺園地である。
- (4) 満足した点としては森林の緑、滝などの景観、きれいな水、空気等をあげる人が多く、不満な点としては、ゴミ、猿のフンの多いこと、トイレの汚いこと、駐車場が狭い、標識が少ないことをあげている人が多い。
- (5) ほとんどの人は、今後もこの公園を利用したいと思っている。
- (6) 今後、この公園に期待する効用として、ハイキング、散歩が最も多く、次いで森林浴、景観観賞をあげる人が多い。
- (7) 整備してほしい設備としては、駐車場が多く、次いで遊歩道、スポーツ施設、休養施設が多い。
- (8) 入園料をとることについては、大部分の人が反対である。

文 献

- 1) 高橋理喜男編：都市林の設計と管理 地球出版 東京 pp.1～219 (1977)